



# 大橋の架けかえは

齋藤 公一 議員

## 必要性は認識している

町長

### 安全・安心の橋に

昭和6年に竣工した大橋は、大変痛みがひどく、このままでは危険と思われる。早急に架橋更新をし、安全・安心の橋にすべきで、そのために関係機関に強力に働きかけるべきだ。

補修工事中の大橋



では当然架けかえの必要性は認識している。しかし、架けかえには40戸前後の家屋移転が必要であり、財政面でも25億から33億円を要することになる。また、大橋を町に移管するという話もあり、慎重に進める必要があると考える。

町民の命を守り、安全・安心のため地区民・町民が一体となる組織を立ち上げ、協議・検討を重ね、関係機関と早急に話し合う場を持つべきだ。



賑わう次年子山菜まつり

### 次年子簡易郵便局は次年子簡易郵便局について、地区振興のため、悲

繕事業に取り組んでいるので、その推移を見ただけで考える必要がある。建設課長、あまり上部機関に刺激を与えない方がよいのではないかと考えている。

願にもなっている「ふるさと自然館」への移転を町として積極的に取り組むべきだ。

町長 ふるさと自然館は地域の活性化のための施設であるので、課題を一つずつ整理しながら、早期に自然館を最大限活用できるように努力していく。

### 委員会活動報告

# 「地域の情報」を町民にわかりやすく

### 広報常任委員会

10/29~30

研修先  
東京都千代田区  
全国町村議会広報研修会

全国町村議会広報研修会が開かれ、広報常任委員5名と議会議務局職員1名が参加した。

### 採択

### 大石田町シルバー人材センター

#### 「一般社団法人」への移行に伴う支援を求める請願

▼請願者 大石田町シルバー人材センター  
理事長 加賀昭太郎  
▼紹介議員 芳賀 清  
▼請願要旨 国内経済の悪化により運営が厳しい状況にあるなか、法改正により「一般社団法人」への移行を予定していますが、センター運営の財源確保が困難であるため、「財政支援」と「公共事業の発注に配慮」をお願いします。

1件を審査

### 固定資産評価審査委員会委員の任命に同意



齊藤 清氏 (井出)

「誌」は本当に必要か? ②対話と活力ある議会広報のために「編集・レイアウトのキーポイント」③議会広報紙の撮影方法と表現方法の研修項目について、3人の講師による講義を受けた。広報誌について専門的な内容の講義であり、メディアが極端なまで多様化する現在でも、紙媒体の広報は必要だということを学んだ。2日目は個別広報誌のクリニック内容の評価・指導で、全国の町村議員が注視する中、「おお



研修で学んだことを編集に役立てていきます

いしだ議会だより」の評価・指導をしていただいた。その結果、「編集の基本に忠実で、見出しやレイアウトにメリハリが効き、読みやすく親しみやすい」フロントの使い方やアミ処理にも優れている「住民登場企画や追跡などの企画も加わると読み応えのあるものになる」と、さらに読まれる広報にする改善点の指摘があったが高い評価を受けた。(記 遠藤)

### 総務文教常任委員会

12/4

調査対象  
防災放送システム  
J アラート  
エリアメール

東日本大震災からまもなく2年を迎えようとしている。千年に一度といわれ、当町でも停電と断水が長時間続いて、町民生活に直接影響がでた記憶が生々しく残っている。また、防災放送システムが機能しなかったことで、町民から不満の声が多く聞かれた。そこで総務文教常任委員会の所管事務調査として危機管理部門の次の調査を行った。



役場庁舎の放送室

①防災放送システムは火災の場合、消防分署から全町に。通常は役場から全町放送。但し停電の場合は、庁用車活用で対応。

②J-アラート(全国いずれのシステムも万一の災害に備えるもので町民の安全・安心に欠かせない大切な設備ですが、できれば不要のものであって欲しいと願う。

(記 芳賀)